わが市を語る 1

「笑顔いっぱい 幸せいっぱい 光り輝く 滑川」の実現に向けて

滑川市（富山県）
滑川市長 水野達夫（なめりかわ みずのたつお）

滑川市は、富山県の中央部からやや東北寄りに位置し、早月川が形成した扇状地に広がる、富山湾に面した田園都市です。また、大型企業の立地により、工業都市としても発展を続けています。

本市の沖合は、世界的にも有名なホタルイカの生息地として知られており、その群遊海面は特別天然記念物に指定されています。ホタルイカの生態を楽しく学び、体験できる唯一の施設「ほたるいかミュージアム」や、期間限定でホタルイカ漁を間近で見学できる「ほたるいか海上観光」など、地域の特色を生かした観光にも力を入れています。


ほたるいか海上観光の様子

また、「市民起点、市民共創」をまちづくりの基本理念に掲げており、市民の皆さま一人一人との対話を重ねることが市政運営をしていく中で、何よりも大切だと考えています。

経済・社会・環境を統合的に進めるSDGs未来都市の取り組み

本市は令和6年度にSDGs未来都市に選定されました。総合計画と同じ将来ビジョンの下、経済・社会・環境の3側面の課題に統合的に取り組み、ゴール達成を目指しています。

社会面の取り組みの一つである、「なめりかわ未来学校」は、今年で4年目を迎えました。市内外の企業と行政が連携して、小学生から大学生までを対象とした実践的な学びの場かつ遊びの場を提供し、次世代を担う人材を育成しています。


なめりかわ未来学校の参加者たち

本市沿岸での藻場の調査は、SDGs未来都市選定を契機として開始した環境面の新たな取り組みです。本市では、現在もテングサが残る地点と磯焼け地点の環境を比較することで衰退した原因と、それに対応する再生方法を究明することを目指しています。藻場の再生はすぐに結果が出るものではないため、産官学のステークホルダーが連携して調査や再生方法の試行を続け、長期的に地域に根差した取り組みとなるよう進めています。

経済面では、地域の産業活性化や新たな仕事の創出などを目指しており、DXの力を借りた本市の施策の柱として注力しているところです。

DXの三つの柱

本市では、市が直面する地域課題に対応するため、令和5年3月に「滑川市DX推進計画」を策定し、市民のDX（デジタルを生かせる地域社会の実現）、まちづくりのDX（データ・デジタル技術を使ったスマートシティの実現）、市役所のDX（行政の変革）の三つの重点施策に基づき取り組みを進めているところです。

主な実施事業として、中小企業等DX支援・DXアドバイザー育成事業・女性デジタル人材育成事業では、それぞれの取り組みが相互に作用し、好循環を生み出す体制の構築を目指しています。また、誰一人取り残されない情報伝達実証実験事業では、高齢者などを対象にスマートディスプレイを貸与



DXの取り組みについて説明を受ける住民の方々

し、緊急情報や町内会情報の受信機能などを提供することで、デジタルデバイドの解消を図る事業を行っています。他にも、なめりかわ共創ポイント事業では、健康づくりの取り組み、地域貢献の活動、公共施設利用・市行事への参加などに対してポイントを付与し、市民の主体的な参加と地域の活性化の促進に取り組んでいます。

今後とも、誰もがデジタル技術の恩恵を受け、豊かな暮らしを送ることができるまちを目指し、幅広い取り組みを推進していきます。

持続可能な地域交通を目指して

本市内には、民間の路線バスがなく、鉄道駅を中心とした市内の移動サービスとして公営のコミュニティバスを運行していますが、近年の利用者の減少や運転手不足などの影響により、持続可能な地域交通の構築について課題となっています。

このため、住民をはじめとした利用者の市内移動の利便性を向上するとともに、持続可能な事業運営を目指した新たなサービスとして、滑川予約型乗り合い交通「よぶマイカー」を導入し、実証運行を開始しました。



滑川予約型乗り合い交通
「よぶマイカー」

よぶマイカーロゴ

よぶマイカーは、路線バスのように決まった時刻表やルートがなく、予約に応じて運行する新たな交通手段です。市内の病院やスーパー、公共施設などに設置した停留所間を自由に移動することができます。

よぶマイカーの導入や運営に当たっては、市民や利用者、事業者との対話を重ねて、本年10月から第2期実証期間として、サービスの内容や運行体制を拡充していくこととしています。

住み慣れたまちで安心の医療環境を

本市では、市民が住み慣れた地域で安心して医療サービスを受けることができる環境を維持するため、診療所の開設にかかる費用を助成する「診療所開設等支援事業」を実施しています。この事業は、土地建物の取得費や医療機器の購入費の2分の1、最大で6千万円を助成するものになります。

令和7年度にはこの事業を活用し、診療所第1号として、地域のメンタルヘルスケアを担う心療内科が開設されました。この診療所は、心の健康を守り支える場として地域住民に寄り添い運営されています。そして本年度には「整形外科」「形成外科・皮膚科」の診療所の開設が予定されており、さらなる診療科の充実が期待されています。

地域医療の未来を築くこの取り組みは、市民の生涯に寄り添う医療体制の確保を目指すためのものです。安心して暮らせるまちづくりの一環として、医療体制の充実に努め、市民の健康づくりを推進してまいります。



診療所開設等支援事業を活用し開設された心療内科



滑川市長
水野達夫

プロフィール

- **面積** 54・62㎢
- **人口** 3万2322人
- **世帯数** 1万3270世帯

〔将来都市像〕 笑顔いっぱい 幸せいっぱい 光り輝く 滑川

〔まちの特徴〕 天然のいけすと呼ばれる富山湾に面した田園都市であり、ものづくりが盛んな、ほたるいかと海洋深層水のまち

〔特産品〕 ホタルイカ、ベニズワイガニ、海洋深層水、海洋深層水トマト、米など

〔観光〕 ほたるいかミュージアム、東福寺野自然公園、みのわ温泉・テニス村、行田公園など

〔イベント〕 春のホタルイカ祭り、ほたるいか海上観光、ふるさと龍宮まつり、滑川のネブタ流し、なめりかわラン&タンまつり、滑川ほたるいかマラソンなど



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 2

フレイル予防と認知症対策を両輪で進める「健幸」まちづくり

西東京市（にしとうきょう）（東京都）
西東京市長　池澤隆史（いけざわたかし）


田無駅前フレイルチェックイベント。フレイルサポーターの皆さんと

市民主体のフレイル予防が生んだ「東の横綱」への歩み

本市におけるフレイル予防は、市民サポーターが主体となって互いの健康を支え合う独自のアプローチを全国に先駆けて推進してまいりました。その熱心な取り組みが高く評価され、いつしか周囲より「東の横綱」と称されるまでに発展いたしました。平成31年には厚生労働大臣や東京都知事の視察を受けるなど、今や単なる健康施策の枠を超え、本市のまちづくりそのものの根幹を成す取り組みへと成長を遂げています。

その根底にあるのは本市ならではの地域特性です。都心へのアクセスに恵まれながらも豊かな自然を残す本市には、人々の「つながり」を大切にする温かな文化が息づいています。また、2市が合併して生まれた経緯から、互いを尊重し「思いやる心」が長年にわたり育まれてきました。この寛容で助け合う市民性が、施策を推進する大きな原動力となっています。

転機は、東京大学高齢社会総合研究機構の飯島勝矢教授との出会いでした。学術的視点を取り入れるべく平成28年に連携協定を締結。「適切な介入で健康な状態に戻れる」という概念の下、「フレイルサポーター制度」や「フレイルトレーナー」の育成に注力してきました。令和7年度はフレイルチェックを48会場で480人、予防講座を22回開催し144人が参加しました。お互いの健康な毎日を思いやる土台があるからこそ、この支え合いの仕組みが力強く根付いています。

社会参加の輪を広げる「健康eスポーツ」の推進

令和4年度の東京大学の分析レポートにより、社会性の低下に直結する「社会参加」の機会創出が課題として浮き彫りとなりました。そこで着目したのが、楽しさとつながりを生み出す「健康eスポーツ」です。令和5年度の検証調査では、eスポーツへの参加がフレイル予防や社会参加促進に寄与することを確認しています。

一過性で終わらせないため、「健康デジタル指導士」を育成するとともに参加型イベント「西東京市シニアゲームLIVE」をスタート。さらに「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」開催地の境港市との自治体間交流試合を展開し、「見る・やる・応援する」といった多様な楽しみ方を提案しています。現在では、市内全ての高齢者施設に機材を常設し、日常的に親しめる環境を整えています。

令和10年に東京都で開催される「ねんりんピックChōju東京2028」では、本市がeスポーツ種目の会場地に決定。大会開催


市長によるオンライン対戦の様子

を見据え、市民が主体的に社会参加できる場をさらに広げてまいります。

医師会との強固な連携と「ユマニチュード®」による認知症施策

フレイル予防と並び、本市が総力を挙げて取り組んでいるのが認知症対策です。目指すのは、認知症予防のみならず、認知症になっても誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりです。

これを力強く推進できている背景には、西東京市医師会をはじめとする地域医療関係者の皆さまとの強固な信頼関係があります。行政と医療現場が密に手を携える体制があるからこそ、先進的な事業もスムーズに、かつ高い実効性をもって現場に浸透させることができます。「西東京市版地域包括ケアシステム」は、医療・福祉・介護を担う多職種が深く連携することで実現した、全国の自治体にも誇れる強固な地域連携の仕組みです。

現在注力する「もの忘れ予防検診」は75歳以上を対象に実施し、MCI（軽度認知障害）の早期発見につなげており、令和7年度の受診者数は2241人（前年比128%）に達しました。また「認知症カフェ」は市内14カ所に拡大し、ご本人の夢をかなえる「本人ミーティング」は2会場で累計62人が参加しています。

さらに令和7年度、本市は全国の自治体で初めて「日本ユマニチュード学会」と包括連携協定を締結しました。私自身が視察した福岡市で、知覚・感情・言語を包括するケア技法「ユマニチュード®」の重要性と、当事者に寄り添う空間づくりに深い感銘を受けたことがきっかけです。表情や身体的アプローチを変え、笑顔を増やすこの技法は、地域で介護を支える上で極めて重要です。市民向け講座は即日満席となり、本年度は「市民向け」と「家族・介護者向け」に分け、地域の共通言語として普及を進めてまいります。

支え合いと「健幸」あふれるまちの実現に向けて

誰もが「介護する側」にも「される側」にもなり得る超高齢社会において、正しく心に寄り添うケア技術や知識を地域の共通基盤として組み込んでおくことは喫緊の課題です。

「健幸」に暮らせる地域社会の実現には、フレイル予防と認知症施策という「両輪」を円滑に走らせることが不可欠です。ハード面とソフト面を融合させ、あらゆる施策を一体的に結び付けることで真の成果が生まれます。

本市には、合併によって育まれた「思いやりの心」、根強い「地域のつながり」、そして「医師会や地域医療との強い連携」という資産があります。これからも市民の皆さまや専門機関と深く手を携え、誰一人取り残さない、健やかで幸せにあふれる西東京市の未来を拓（ひら）いてまいります。



認知症を知るトークイベント「オレンジフェス」の様子



社会参加促進冊子「わたしびより」



西東京市長
池澤隆史

プロフィール

◆**面積** 15・75㎢
◆**人口** 20万7874人
◆**世帯数** 10万5080世帯

【将来都市像】基本理念である「ともにみらいにつなぐ やさしさといこいの西東京」の実現に向けて、市民一人一人がウェルビーイングを実感できるまち

【まちの特徴】市内に5駅があり、都心に近いながらも農地や公園などのみどりと住宅が調和したまち

【市町村合併】平成13年1月21日、田無市と保谷市が合併

【特産品】多摩地域1位の作付け面積を誇るキャベツや高糖度の「スイーツキャベツ」、樹上完熟による保谷梨、苗木・植木など

【観光】国史跡下野谷遺跡、多摩六都科学館、東大農場、いこいの森公園、田無神社、東伏見稲荷神社など

【イベント】西東京市民まつり、下野谷遺跡縄文秋まつり、オレンジフェス、リレーマラソンなど



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 3

市民一人ひとりが夢を持てるまちに

加東市（兵庫県）

加東市長　岩根　正



毎年9月に開催の「加東市山田錦乾杯まつり」

「夢ある加東」の実現を

加東市は、本年市制20周年という節目を迎えました。

本市は美しい自然、豊かな文化、温かな人々を誇るまちです。二つの中国自動車道インターチェンジがあることから、神戸、大阪、京都にそれぞれ約1時間で行くことができ、その交通の便から、産業も非常に盛んです。

酒米の王様・山田錦の全国生産量の8分の1を生産し、産地格付け最上位の「特A地区」であるため、全国100以上の有名蔵元に提供しています。毎年9月開催の「加東市山田錦乾杯まつり」は、全国から蔵元が参加され、本年は21の蔵元が集いました。これだけ多くの蔵元が集う乾杯まつりは他に類を見ない盛り上がりです。

このような先人たちが築き上げてきた文化を継承するとともに、もっと住みやすく、楽しいまちにするために、「市民一人ひとりが夢を持てる加東市」を目指し、四つの柱を軸に施策を進めています。

子どもたちの夢（教育）

教育はまちづくりの「一丁目一番地」だと考えています。本市では「小中一貫教育」に取り組んでおり、市内三つの中学校、九つの小学校を三つの小中一貫校への統合を進めています。既に2校が開校し、残る1校も令和10年に完了する予定です。子どもたちには、一人一人が自らの可能性を信じ、夢を大きく膨らませられる環境が大切です。そして個性を伸ばす教育を進めていくために取り組んでいるのは、小学校高学年での教科担任制や、プロから学ぶ「かとう夢授業」です。伸び盛りの時期にプロから学ぶことはとても大切です。小中学生の大事な時期に「本物」に触れる機会を設けることで、さまざまな可能性が広がり、夢を持ち、個性あふれる人材の輩出につなげたいと考えています。



令和7年4月に開校した社学園小学校・中学校

高齢者の夢（福祉）

高齢者の皆さまが、自分なりの夢を持つことで、心豊かに「長寿」を謳歌し、楽しく日々を過ごしていただきたいと願っています。そのためには、健康寿命を延ばすことを目指し、現在市内66カ所で行っている「まちかど体操教室」をはじめとする健康増進の取り組みを拡充していきます。

さらに「安心して暮らせる生活支援」を充実させるため、デマンドタクシーによって日常の移動支援を行うとともに、民間と連携した移動販売による買い物支援を導入しております。

子育て世代の夢（子育て支援）

本市では、安心して産み育てられ、子育てそのものを楽しめるまちであるために、「妊娠期から18歳まで、切れ目のない子育て支援」を行っております。また、新たに「こども誰でも通園制度」を実施す

るとともに、小規模保育をスタートさせました。今後は、アフタースクールの環境拡充などにより、仕事と子育てを誰もが無理なく両立できる体制を構築します。さらに「安心の医療・健康サポート」を強化し、小児医療体制の拡充に加え、産後ケアや1カ月健診への助成を行い、妊婦の方々や乳幼児の健康を支えていきます。



商業施設に隣接した、にぎわい交流施設「halk」



トリックアートを展示する「加東アート館」

地域の夢（産業・にぎわいの創出）

本市には現在、四つの産業団地があります。今後若者などが定着できる経済基盤と、そのための雇用を増やす必要から、新たな産業団地二カ所の創出に取り組んでいます。

また、二つの国道の結節点にある大型商業施設の南側に、バスターミナルがあり、それに併設した交流施設では、毎月さまざまなイベントを開催しています。新しい本市の顔となるにぎわいの拠点として今後さらに充実させていきます。

一方で、本市にはさまざまな観光資源があります。これまで、国宝朝光寺、西国第二十五番霊場御嶽山播州清水寺、県立播磨中央公園など、映画のロケ地になった場所がたくさんあります。

これらの既存資源に加え、まちなかアートや映画ロケの誘致、さらには、自転車スポーツやパルクールといった都市型スポーツなどの新たなコンテンツを生み出す取り組みを行い、県外・市外から多くの来訪客を呼び込み、交流人口の拡大に取り組んでいきます。

安全・安心のまちづくり

基盤整備では、国営東条川二期事業として、戦後最初の土地改良事業で整備された水利施設を、50年以上維持できるよう、改修工事が進んでおります。また、国直轄で加古川の河川改修を行い、平成16年と同等の災害でも耐えられる治水事業が進んでおります。また、本年3月には、自走式トイレカーを購入し、全国のトイレカーを所有する14の市町と「自治体トイレカー災害時相互派遣に関する協定」を締結しました。大規模災害時には、市内外問わず被災地に派遣するほか、平時においては市民への防災啓発に活用いたします。

本市は大きな災害がほとんどないまちですが、近年の異常気象における全国的な災害多発から考えると、平時からの備えは大変重要です。災害に強い、安全・安心なまちづくりを推進していきます。

結びに、本市は、観光・文化・産業などたくさんの魅力あふれたまちです。これまでの歩みを継承していくとともに、市制20周年という節目を迎え、変革の時期でもあります。まずは市民の生活を第一に、「夢ある加東」の実現のため、構造改革を含めた積極的な取り組みを推進してまいります。

プロフィール


加東市長
岩根　正

◆**面積**　157・55㎢
◆**人口**　3万8975人
◆**世帯数**　1万8046世帯

【将来都市像】山よし！技よし！文化よし！夢がきらめく☆元気なまち加東
～みんなが主役！絆で結ばれた　笑顔あふれる　しあわせ実感都市～

【まちの特徴】
●図書館・図書の貸し出し密度（人口4万人以下の自治体の部）20年連続日本一
●市民1人当たりの生活系ごみが14年連続県内最少

【市町村合併】平成18年3月20日、加東郡の社町、滝野町、東条町の3町が合併して誕生

【特産品】酒米山田錦、桃、茶、釣り針、ひな人形、鯉のぼりなど

【観光】16のゴルフ場、国宝朝光寺、西国第二十五番霊場御嶽山播州清水寺、五峰山光明寺、県立播磨中央公園、闘竜灘、平池公園、東条湖、加東アート館

【イベント】（国指定重要文化財）上鴨川住吉神社神事舞、（県指定重要文化財）秋津百石踊、（県指定重要文化財）朝光寺鬼追踊、花まつり・鮎まつり、加東市山田錦乾杯まつり、加東市花火大会、加東市夏のおどりなど



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 4

神埼（かんざき）市（佐賀県）

神埼市長　實松尊徳（さねまつたかのり）

「神埼市らしさ」が生きる持続可能なまちづくり



上空から見た市の景色

神埼市について

本市は佐賀県東部に位置し、西は県都である佐賀市、北は福岡県福岡市と隣接する自然豊かなまちです。都市部に近く、自然が豊かということもあり、週末は「吉野ヶ里歴史公園」を中心に多くの親子連れでにぎわっています。

一方、産業面では、土地利用型農業（米、麦、大豆などの生産）が盛んであることに加え、施設園芸（イチゴ、アスパラガス、ピーマンなどの生産）も盛んです。また、㈱ヤクルト本社佐賀工場やトヨタ紡織九州㈱などの企業が立地し、二次産業も盛んな地域です。

観光面では、吉野ヶ里歴史公園のほか、国の名勝「九年庵」の春・秋の公開時には全国各地から多くの観光客が訪れます。また、スポーツも盛んで、「神埼市長旗全国選抜中学生剣道大会」や「さが桜マラソン」などにおいて、毎年、多くの選手をお迎えしています。

安全・安心のまちづくりの推進

近年、毎年のように発生する線状降水帯により、中山間地から低平地までを有する本市においては、大雨による土砂災害や内水氾濫が心配され、豪雨対策が最優先の課題となっています。そこで、本市では、市民と連携し「流域治水」に取り組んでいます。「自分たちにできることは自分たちで」という自助の考え方の下、上流域である中山間地域においては、成長した樹木を主伐し新たに植林をすることで山が持つ本来の保水力を高める。また、中流域では、クリーク（農業用排水路）の事前排水を行い、貯水ポケットを造る。併せて、田んぼダムにより、水田全体を利用し貯水を行うことで雨水が一気に下流域に集中するのを防いでいます。ただ、こうした取り組みを行っても、内水氾濫を十分に防ぐことができないため、国・県の支援を受けながら、上流域では「城原川ダム」の建設を、また、低平地である下流域では、排水機場の整備を進めています。



スノーピークグラウンズ吉野ヶ里



国の名勝「九年庵」

さらに、内水氾濫は広域にわたることが多いことから、近隣市町と連携して「筑後川右岸下流域（三神地区）流域治水対策協議会」を組織し、広域で流域治水に取り組むことで、本市の安全・安心なまちづくりを推進しています。

「子育てするなら神埼市」の推進

持続可能なまちづくりを推進するためには、子育てしやすい環境づくりと、子どもたちがさまざまな体験をすることができる場づくりが重要であると考えています。

そのため、本市では、子育て世

帯の経済的負担を軽減するため、ライフステージに応じて、結婚新生活支援（家賃補助、引越費用補助など）や子どもの医療費助成、ベビーカー・ベビーベッドの無償貸与など、さまざまな支援を行っています。

一方で、子どもたちの体験の場づくりとして、行政において幼少期から英語に触れる機会をつくるとともに、民間において子どもたちへの読み語り、そうめん作り体験など、さまざまな体験の場づくりがなされています。少し例を挙げますと、集落内の自治公民館において「家読（うちどく）」という名称で、幼少期から読書に親しむ機会を市民が自主的に提供される取り組みが行われています。また、毎年6月に住民が運営する「子どもまつり」が開催され、学生から高齢者までの幅広い世代が、自分たちが子どもたちに体験させられるものを提供しようと、お菓子作りやコマ回しなどの昔遊び、スケートボードやe-スポーツの体験など、さまざまな体験の場が提供され、多くの子どもたちでにぎわいます。



子育て支援センター「そだてらす」

今後の展望

本市は、本年3月20日に合併20周年を迎えました。これまでの先人の取り組みを生かしながら、持続可能なまちづくりを進めたいと考えていますが、その時のポイントは、私は「教育」であると考えています。本市は、伊東玄朴、下村湖人、吉田絃二郎など、教育や文学に関する多くの偉人を輩出しています。また、市民が自分の子どもでなくても子育てに積極的に関わる風土があると感じています。

そのため、これらの地域の特徴を生かし、「教育」にこだわったまちづくりを推進することが、「神埼市らしさ」の実現につながると考えています。30年後、40年後、振り返った時に、あの時がターニングポイントだったと言われるような「神埼市らしさ」を意識した持続可能なまちづくりを進めてまいります。



神埼の偉人マンガシリーズ

プロフィール



神埼市長
實松尊徳

◆**面積**　125・13㎢
◆**人口**　2万9793人
◆**世帯数**　1万2738世帯

〔将来都市像〕「幸せつなごう　かんざき」～みんなで支え合い、誇りと笑顔あふれるまちを目指して～

〔まちの特徴〕佐賀県東部に位置し、西は佐賀市、北は福岡県福岡市と接しています。都市部に近い自然豊かなまちということで、週末は吉野ヶ里歴史公園を中心に親子連れでにぎわうまちです

〔市町村合併〕平成18年3月20日、神埼町、千代田町、脊振村の3町村で合併



〔特産品〕神埼そうめん、尾崎人形、お米、イチゴ、アスパラガス、ピーマン、シイタケ、さしみこんにゃく、ノリ、脊振ジビエ、家具など

〔観光〕国営吉野ヶ里歴史公園、国名勝「九年庵」、国史跡「姉川城跡」、伊東玄朴旧宅、下村湖人生家、櫛田宮、脊振神社、クリーク公園、王仁博士顕彰公園、スノーピークグラウンズ吉野ヶ里など

〔イベント〕九年庵の一般公開（春・秋）、長崎街道かんざき宿場まつり、城原川ハンギーまつり、脊振わんぱくまつり、神埼そうめん祭り、吉野ヶ里ロードレースin神埼市など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。